富山経済同友会

会報
2024.5月
No.318

（第３回人財活躍委員会県外視察）

CONTENTS

- 【特集】2024年度定時総会 …… 2
- 第36回全国経済同友会セミナー ……13
- ３月会員定例会 ……14
- 【講演録】３月会員定例会：谷口 英司 氏 …14
- スケッチオーデション ……20
- 第３回人財活躍委員会（県外視察） ……22
- 第４回委員長連絡会議 ……23
- 第６回文化スポーツ委員会 ……24
- 第４回アスリート支援小委員会 ……24
- 第３回 ESG 経営小委員会 ……25
- 活動報告 ……25
- リレーエッセイ⑲（東澤 善樹 氏）……27
- 会員の入退会 ……28
- 慶事のお知らせ ……32
- 事務局からのお知らせ ……33
- 今後の予定 ……33
- わが青春の１枚（高木 悦郎 氏） ……34

2024年度定時総会
―会員約200名が出席し盛大に開催！―

４月24日㈬、2024年度定時総会がＡＮＡクラウンプラザホテル富山で開催され、約200名が出席した。

麦野代表幹事

冒頭、麦野英順代表幹事が開会挨拶を行い、牧田和樹代表幹事が議長を務め、報告事項の2023年度事業報告がなされたのち、決議事項として①2023年度決算案、②2024年事業計画案、③2024年度予算案、④新役員の選任の４件について審議が行われた。

2023年度事業報告では大橋聡司副代表幹事が概要報告を行い、各委員長が活動状況を説明した。また、中村厚会計監事が2023年度決算の監査報告を、桶屋泰三副代表幹事が2024年度事業計画案の説明をそれぞれ行い、いずれも原案どおり承認された。

2024年度事業計画では、２年目となる７委員会４小委員会が委員会活動を深化させ、「連携」・「創造」・「行動」をキーワードに行動していくことが決定された。

役員の選任では、松田光司氏が副代表幹事に、伊東潤一郎氏、浅野雅史氏、島田好美氏が常任幹事に選任された。そして、副代表幹事の高林幸裕氏、常任幹事の津嶋春秋氏、白倉三喜氏の特別幹事への就任ならびに12名の新幹事の選任も承認された。

４件の審議終了後、新任役員と退任役員の挨拶がなされ、続いて事務局員の交代に伴う紹介があった。

牧田代表幹事

総会終了後、新田八朗富山県知事、藤井裕久富山県市長会長、山室芳剛商工労働部長を来賓にお迎えして懇親会を開催した。

藤井市長会会長

牧田代表幹事の開会の挨拶に続いて、本年１月以降入会された新会員を紹介した。その後、藤井富山県市長会長が乾杯のご発声を行った。

新田知事

新田知事は公務で途中からの出席となったが、来賓の挨拶で、能登半島地震の際の義援金について御礼を述べ、「我が県の人口は100万人を割る予想で、改めて人口のビジョンを考え直そうと取り組んでいる。社会問題としてではなく、経済問題として人口問題を考えないといけないので、経営者の皆様も我が事と捉えていただき共に知恵を絞っていただきたい。」と述べた。

高林副代表幹事

最後に高林幸裕副代表幹事が「会員も450人に迫り、日本の中でも10本の指に入ろうとする大経済同友会になろうとしている。これからも積極的に活動していただきたい。」と閉会の挨拶を行い、盛会のうちに終了した。

魅力あるふるさとを作ろう

－総会・開会挨拶－　代表幹事　麦　野　英　順

本日は、200名近くの会員の皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。昨年はコロナからの脱却ということで、企業活動も人の流れも平常な形に戻ってくるだろうということを期待していたのですが、１月１日に能登半島地震が発生し、県内においても甚大な被害があり、心からお見舞い申し上げます。そして、一日も早い復興、復旧に向けて我々会員一人ひとりが出来る範囲で支援を続けていきたいと思っております。

１月の幹事会では今年の日本経済の見通しを少しお話させていただきました。まだ数ヶ月しかたっておりませんが、中東リスクで原油価格が高騰しております。年末年始には円高に向かうだろうと予測されておりました円相場は、今のところは円安に振れてる状況であります。

こうしたVUCAの時代において我々経営者はいかに物事を進めていくべきかであります。私個人的には､経営者の使命は｢決断すること｣だと思っております。しかし、環境が変化した時には勇気をもってそれを変えることも必要であり、そうやって不確実な時代を乗り切っていくことが求められます。

４月18、19日に、福井で全国経済同友会セミナーが行われました。富山からも24名の会員が参加し、全国44経済同友会から1,200名を超える会員の参加があるなど、福井では新幹線開業以来最大のビッグイベントとなりました。「どうする！人口減少NIPPON」をテーマに、東京以外で人口減少が進む中、若者の流出や、消費マーケットの縮小、インフラ負担の増大などを解決するため、地域をいかに活性化するかといった喫緊の共通課題について活発に議論が交わされました。

富山経済同友会としても、引き続き行政、地域コミュニティと危機感を共有しながら魅力あるふるさとを作りあげるべく、行動指針「創造する経済人　行動する同友会」のもと、今年度も委員会を中心に活発に活動して行きたいと思っておりますので、皆さんのご協力をよろしくお願いします。

活発に交流していこう

－懇親会・開会挨拶－　代表幹事　牧　田　和　樹

皆さんこんばんは、定時総会お疲れさまでした。皆様方のおかげをもちまして無事総会を終了することが出来ました。さて、ここからが当会のメインイベントの大懇親会となります。

まずは、新田知事、藤井市長会長、山室商工労働部長には、お忙しい中お越しをいただきありがとうございました。

ご案内の通り経済同友会は他の経済団体と成り立ちが異なり、企業を代表して参加するのではなく、経済界に身を置く個人として、企業の業種、業態、大小にかかわらず、加えて、同じ企業からも複数ご参加をいただいています。このような組織で、ひとりの経済人として自由に意見交換し、交流できる、それが当会の大きな特徴ではないかと考えています。とりわけ、この定時総会懇親会は様々な垣根を超え、幅広く交流する最大の機会であります。

また、経済同友会では、他の経済団体の会頭や会長同様に、代表幹事の役職がありますが、幹事とついているところに特徴があります。幹事はお世話をする係であり、代表幹事はお世話係の代表ということですから、併せて役職関係なく自由闊達に懇親いただければと思います。

是非、今後も様々な場面で交流を深めていただき、ひいては富山の活性化に寄与していただければと思います。今晩は大いに盛り上がりましょう、ありがとうございました。

活発だった委員会活動

副代表幹事　大　橋　聡　司

2023年度の活動の概要についてご説明します。

まず、元日に発生しました能登半島地震は当地に甚大な被害をもたらし、今なお深く傷痕が残されておりますが、当会として１月19日に３百万円を富山県に義援金として寄附させていただきました。

2023年度はＳＤＧｓ推進を念頭に①持続可能な企業経営は「企業経営委員会」、②持続可能な人づくりは「人財活躍委員会」と「教育問題委員会」、③持続可能な地域づくりは「地域創生委員会」と「文化スポーツ委員会」、④パートナーシップは「企画委員会」と「交流委員会」の７つの委員会がそれぞれ活発に活動を展開いたしました。

新たに設置いたしました４つの小委員会でも積極的に講演会、勉強会の開催、プログラムの実施に取り組んでいただきました。

2023年度は委員会活動の初年度であり、活動開始が遅くならざるを得ませんでしたが、委員会開催回数はほぼ例年並みでありました。また、開催形式もオンラインからインパーソンとなりましたが、１回あたりの平均出席者が前年度を上回るなど、委員会活動が活発に行われたことを高く評価したいと思います。

引き続き活発な委員会活動が行われることを期待しております。

以上、私からの説明とさせていただきます。

委員会再編内容をフォローする

企画委員長　高林 幸裕

2023年度は、２回の委員会と３回の委員長連絡会議を開催しました。

企画委員会の検討テーマは「2023年度委員会再編内容のフォロー」でした。

2023年度からの委員会体制の目的は、外部連携や委員会横断の連携推進に加え、重点的に取り組むテーマ等に対応するため４つの小委員会を新たに設けたことであります。

企画委員会では委員会再編後の各委員会の活動状況を把握し、課題があれば対応するとの問題意識で検討を行ってきました。

昨年11月に第１回委員会を開き、上期（７～９月末）の委員会開催状況や会員の参加状況を数値化し、２月の第２回委員会では12月末までのものを数値化したところ、委員会未登録の状況が顕著に改善し、委員会への参加率も高くなっておりました。

また、県内各界との連携が進められ、委員会活動は活発に取り組まれており、今後とも現行の体制のもとで推進すべきとの最終報告をいたしました。

また、委員長相互の情報共有と連携、啓発を目的に委員長連絡会議を四半期ごとに合計３回開催いたしました。

忙しい委員長さんに集まっていただき、各委員会の活動の進捗状況や課題共有、意見交換により、さらに質の高い委員会活動や相互連携に繋がったのではないかと思っております。

以上で、企画委員会の活動報告を終わらせていただきます。

海外・国内交流を活発に展開

交流委員長　中沖　雄

新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴い、国内・海外視察等の際の感染症対策ガイドラインを改訂するとともに、各地同友会との交流や当会の交流事業、海外経済視察を計画どおり実施しました。

６月に「全国立山大使の会」を東京で開催しました。参加者それぞれがユーモアを交えて近況報告を行い、和気あいあいとした楽しい会となりました。

海外経済視察は７月27日～８月３日に、オランダ・アイスランドを訪問し、両国のSDGs、環境・エネルギー、ウェルビーイング等の先進的な取組みを視察しました。

８月の新会員歓迎オリエンテーション・懇親会では、麦野代表幹事に当会の活動について新会員に紹介いただき、その後新会員の皆様に１人ずつ自己紹介いただきました。

各地の経済同友会との交流としては、９月に金沢市で第14回日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミットが開催され、14同友会の持ち回りが一巡して、今回が最終回となりました。

10月には名古屋市で第31回経済同友会中央日本地区会議が「カーボンニュートラルの実現に向けて～いま企業が取るべき対応とは～」をテーマに開催されました。

委員会は４回開催し、５月の第１回委員会では、2023年度の活動計画と感染症ガイドラインの改訂、10月の第２回委員会では、今年度の海外経済視察の振返りと来年度の海外経済視察の視察先の検討を行いました。

１月の第３回及び２月の第４回委員会では旅行業者選考プロポーザルを実施し、2024年度の視察先の検討を行いました。

以上で、交流委員会の活動報告を終わらせていただきます。

目からウロコの感動を

企業経営委員長　高木 悦郎

持続可能な経営を目指すための諸課題への対応、あるべき経営者の姿に関して考えることをテーマに、2023年度は目からウロコの感動の機会を会員の皆様に提供するという目標を立てて行ってまいりました。

第１回拡大委員会として、日銀金沢支店の吉濱支店長の講演会を開催しました。日銀総裁交代後のなるべく早い時期に開催したいと考え、７月に講演会を前倒しで開催しました。

９月の第２回拡大委員会では、NiX JAPANの市森社長に事例発表をいただきました。自社の成長の軌跡について、経営科学の視点から熱く語っていただきました。

10月の第３回拡大委員会では、三井物産戦略研究所の緋田特別顧問に日本を取り巻く世界情勢についてご講演いただきました。経営において地政学リスクは避けては通れない厳しいものであり、安全保障環境の厳しさを改めて痛感しました。

11月には第４回委員会として県外視察を行い、トラスコ中山の幸手物流倉庫、楽天グループ本社、第一生命保険マッカーサー記念室を視察しました。楽天グループでは小林 CWO からお話を聞いたのですが、社を挙げてウェルビーイングに取り組んでおられ、とても有意義なお話でしたので、是非富山でご講演いただきたいとお願いしこの５月に講演いただくこととなりました。

12月には会員定例会を主管し、ユーグレナの出雲代表取締役社長にご講演いただきました。

１月には、富山県から補助を受け、「パートナーシップ構築推進セミナー」を開催しました。

「経営道場」は２月に開催し、正栄産業の森藤社長に発表いただきました。オープンしたばかりの正栄産業の新社屋を会場として使わせていただき、活発な意見交換や多くの質疑がなされ、活気あふれる経営道場となりました。

景気定点観測アンケートは、７月と12月の２回実施し、原材料・エネルギー価格高騰による影響、パートナーシップ構築宣言、賃上げ、生成 AI の活用について調査しました。

企業経営委員会の活動報告は以上となります。

気づきと学びを社業に活かす

人財活躍委員長　森　弘吉

気づきと学びを得ながら社業に活かす事を目標に活動し、活動１年目となる2023年度は、「女性活躍」、「外国人材の活躍」、「兼業副業人材の活用」をテーマに活動いたしました。

まず、７月には会員企業を対象に「海外高度人材の活用に関するアンケート」、富山大学の留学生を対象に「就労に関する意識調査」を実施し、外国人材の活用状況や、受入れにおける課題について調査を行いました。

８月には第１回委員会を開催し、今期の活動方針・活動計画について委員に共有し、富山県女性活躍専門コンサルタントの永合氏に、企業経営とダイバーシティ推進をテーマにご講演いただき、女性活躍推進の必要性、アンコンシャスバイアスについて実例を挙げて説明いただき、多様性推進に向けて理解を深めました。

11月には「TOYAMA KATARAI CAFE」を実施し、様々な国の学生を招き、企業経営者と学生との意見交換会を行いました。普段接することのない留学生の就職に対する思いを確認いたしました。

１月には第２回委員会を開催し、㈱就活ラジオの辻氏、富山大学より會澤副学長をお招きし、当委員会より山田副委員長も参加し、パネルディスカッションを行い、就職支援担当者、学生、企業それぞれの立場から採用や産学官交流会に対するイメージを共有することが出来ました。

また、外部団体とも積極的に連携いたしました。「共生の未来・富山シンポジウム」の実施や、富山県とは大学１、２年生、富山大学とは留学生を対象とした企業見学バスツアーを実施し、富山県プロフェッショナル人材戦略本部とは、オンラインによる副業・兼業人材とのマッチング交流会を実施いたしました。

活動報告は以上となります。

海外教育事情視察を終えて

教育問題委員長　土屋　誠

活動１年目は、「持続可能な人づくり（次世代を担う人材育成）に取り組む。教える側と教えられる側の両面に対して」をテーマに活動しました。

８月には第１回委員会として、富山大学大学院の林教授に「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え判断する力を育む『探究的な学び』」についてご講演いただきました。

最終回となった海外教育事情視察（８月29日～９月６日／ドイツ・オーストリア・デンマーク）では、過去最多の20名の視察団とともに、ドイツでは複線型教育や職業教育を、オーストリアでは芸術文化を、デンマークでは高福祉・高負担国家の現状や自主性を重んじる教育を視察しました。

９月には中部経済同友会主管の「第10回５経済同友会教育担当委員会交流会」に参加し、小中一貫校の視察、意見交換を行いました。

11月及び１月には県教育委員会と、教員の働き方改革や当会と県教委との今後の連携について意見交換しました。

また、１月会員定例会を主管し、国際バカロレアの認定校である、さいたま市立大宮国際中等教育学校の関田校長にご講演いただき、特色ある数々の取組みに驚かされました。

１月、２月に開催した第４回・第５回委員会では、海外教育事情視察の後継事業や、当会主管で開催予定の「第11回５同友会教育担当委員会交流会」の企画案をはじめとする令和６年度の事業について検討しました。

課外授業講師派遣は、15校に延べ20名の講師を派遣しました。制度創設以来の延べ数は、338校・456名となっております。また、県や富山市が開催する教員向けの研修会にも10回延べ26名の講師を派遣しました。多くの会員の皆様にご協力いただき、御礼申し上げます。

教育問題委員会の活動報告は以上です。

持続可能なまちづくりを目指して

地域創生委員長　池田 治郎

活動１年目となる2023年度は、「魅力あふれる持続可能なまちづくり」をテーマに選定し、活動いたしました。

まず７月には、第１回委員会を開催し、活動方針を委員の皆様に共有するとともに、富山県 公民連携推進監の吉田氏に講演いただき、共創・運営型の公民連携の取組みや起点となる未来ビジョンの必要性について学びました。

次に､10月には､第２回委員会として広島市・松山市を視察いたしました。

広島では、広島経済同友会の椋田まちづくり委員長と意見交換を行い、オール広島での地域の魅力向上に向けた取組みや、組織間の調整役・エリア間の連携役を担うまちづくりプラットフォーム・広島都心会議の意義について学ぶとともに、賑わい創出のための空間整備や人が集まるからくりを展開する広島都心を歩いて視察いたしました。

また、松山では、“歩いて暮らせるまち”を掲げ空間整備を進める松山市とまちづくりプラットフォーム・松山アーバンデザインセンターへのヒアリングを実施し、歩行者空間の整備事例や、産学官連携かつ住民参加型の賑わい創出に向けた取組み事例について学ぶとともに、空間整備がなされた大通りや活気あるアーケード街等の松山中心市街地を歩いて視察いたしました。

なお、この視察に併せ、広島経済同友会との交流会も開催し、地域活性化に係る情報交換や交流の深化を図っております。

そして、１月には、第３回委員会を開催し、講演会・県外視察で得た知見を委員の皆様にあらためて共有したうえで、富山のまちづくりについて意見交換を実施いたしました。

地域創生委員会の活動報告は以上となります。

地域文化の魅力を探る

文化スポーツ委員長　武内 孝憲

活動１年目となる2023年度は、文化芸術に親しみ、地域文化・スポーツ活動を支援し、地域活性化に貢献することをテーマに活動しました。

７月には、オーバード・ホール中ホール開館のタイミングに合わせ、タニノクロウ氏にご講演いただき、地域における文化施設のあり方について考えました。

８月、拡大委員会としてアスリート支援小委員会と合同で開催し、元サンフレッチェ広島の佐藤寿人氏にご講演いただきました。

11月には、武蔵野美術大学・前学長の長澤忠徳教授に､「デザインが描く文化都市・富山の未来－100年後も残る「価値」をつくる」と題しご講演いただき、また彫刻家の吉野美奈子氏には、公共芸術とまちづくりについてご講演いただきました。

12月、呉羽にある富山市芸術文化創造センターにおいて、タニノクロウ氏の舞台美術製作現場と稽古場を取材しました。また富山市民文化事業団の取り組みについて意見交換を行いました。この日は、富山県文化振興財団、氷見市文化振興財団の方にもご参加いただき文化施設職員との意見交換を行いました。

１月には、タニノクロウ氏の舞台公演を鑑賞しました。舞台終了後、アフタートークを開催し、舞台美術を間近で見せていただきました。

３月の会員定例会を主管し、レヴォの谷口英司シェフに富山の食文化の魅力について、富山県人として富山の食の魅力を発信することの大切さや富山の豊かな食が観光に繋がる可能性についてお話をいただきました。

最後に、元岡山経済同友会代表幹事で大原美術館名誉館長の大原謙一郎氏にお越しいただき、文化を愛で、芸術に親しみ、人文学を身に付けることを通じて生まれる知の力、人文知についてお話を伺いました。

同友会の日は、３回にわたり開催し会員、従業員の皆様に参加いただきました。

以上、文化スポーツ委員会の活動報告といたします。

ＥＳＧで企業の持続的発展を　　ＥＳＧ経営小委員長　松田 光司

当小委員会は、2023年度に新設された小委員会であり、活動１年目として、環境・社会・ガバナンスを考慮するＥＳＧ経営について知見を深めるべく、講演会・勉強会を開催しております。

まず、７月に、環境省の和田事務次官を講師にお招きして第１回委員会を拡大委員会として開催いたしました。「ＧＸから見たビジネスの方向性」と題したご講演は、我々企業経営者にとって非常に示唆深く、大変意義ある設立記念講演会となりました。

また、10月には、第２回委員会として“入門編”となる勉強会を開催いたしました。三井住友信託銀行㈱の松本執行役員から、企業価値向上に向けたＥＳＧの取組みをご教示いただき、ＥＳＧ経営についてあらためて学びを深める機会となりました。

ＥＳＧ経営小委員会の活動報告は以上となります。

起業家精神を若い世代にも　　アントレプレナーシップ小委員長　村上 宏康

当小委員会は前期の人財活躍員会の提言から「スケッチオーデション」をさらに発展させ、富山県内における起業家精神を醸成すべく新たに設置され、2023年度は「スケッチオーデション」の運営と、10月の定例会を主管いたしました。

定例会では、武蔵野大学の伊藤羊一学部長にテクノロジーがもたらした世界の変化や、武蔵野ＥＭＣでの取組みについてご講演いただきました。

スケッチオーデションは単なるビジネスプランコンテストではなく、「仲間づくり」をテーマとして活動しているのが特徴であります。

講義には毎回様々な分野の専門家をお招きし、参加者の知見を広めるだけでなく、モチベーションアップとなるような講義をしていただきました。

プレゼン大会では、高校生が優勝し、準優勝、特別賞も大学生が受賞するなど、若い世代にもアントレプレナーシップが徐々に浸透してきました。

アントレプレナーシップ小委員会の活動報告は以上となります。

ウェルビーイング経営の実践　　ウェルビーイング小委員長　東出 悦子

当小委員会は、県成長戦略のキーコンセプトであるウェルビーイング社会の実現に向け取り組むことを目的に新たに設置され、活動１年目は７月定例会を主管し、委員会を１回開催しました。

定例会では、福井県立大学の高野准教授に、福井における「ウェルビーイングなまちづくり」の取組事例を挙げ、ウェルビーイングの深化につながる“居場所”と“舞台”の概念をご紹介いただきました。

２月の第１回委員会では、３部構成でウェルビーイング経営実践に向けた勉強会を行いました。第１部の講演会は、ハリタ金属の張田代表と十全化学の廣田社長に自社における取組事例をご紹介いただきました。第２部ではグループで議論し、第３部は、県商工労働部の舟根次長にもパネリストとして登壇いただき、意見交換を実施しました。委員相互・官民相互に課題や意識を共有できる、非常に有意義な機会となりました。

ウェルビーイング小委員会の活動報告は以上です。

アスリートが地域で活躍できる環境を目指して　アスリート支援小委員会副委員長　武内 孝憲

活動１年目となる2023年度は、「受け入れ企業が『入れてあげてもいいよ』ではなく『是非来て欲しい』、アスリート側は「是非この企業に入社したい」という相思相愛のマッチングができる組織の構築」をテーマに、活動を行いました。

８月、元サッカー日本代表の佐藤寿人氏をお迎えし、元アスリートの立場から現役時代に感じた事、アスリート支援に関して期待すること等についてお話を伺いました。

10月、初めて委員が顔合わせし、活動方針を共有し、各委員からアスリート支援に対する考えを聞きました。

１月、カターレ富山を引退後、富山で就職された、高橋駿太氏、佐々木一輝氏に委員会にお越しいただき、現役時代、そして引退した今の思いを直接お聞きし、同友会として支援できる取組みについて意見交換を行いました。

２月、会員全員にアスリート支援、部活動応援企業に関するアンケートを実施しました。

３月、アンケートの集計結果について検証し、今後の活動の方向性を話し合いました。また県教育委員会から「部活動応援企業募集」についての説明を受け、担当者と意見交換を行いました。

以上、簡単ではございますが、アスリート支援小委員会の活動報告とさせていただきます。

2024年度 事業計画

「連携」・「創造」・「行動」をキーワードに活動

副代表幹事　桶屋　泰三

2024年度の事業計画案についてご説明いたします。今年度は委員会活動２年目となり１年目の活動をさらに深化させていきます。

具体的には企業経営委員会は、「目からウロコ」の感動とディスカッションの機会をつくります。

人財活躍委員会は、新たに産学官の共同・連携を図りながら、意欲ある人材を富山に呼び込む仕組みづくりを行います。

教育問題委員会は、海外教育事情視察の後継事業や５同友会による教育交流会に引き続き取り組むとともに経済界と教育界の連携を一層深めていきます。

地域創生委員会は、持続可能なエリアマネジメント、魅力ある都市デザインについて更に調査・研究を進め、富山のまちづくりに関する考察を行います。

文化スポーツ委員会は、芸術活動や食文化などの富山の魅力再発見と、スポーツ選手との交流や意見交換を通じて、文化・スポーツによるまちづくりを考えていきます。

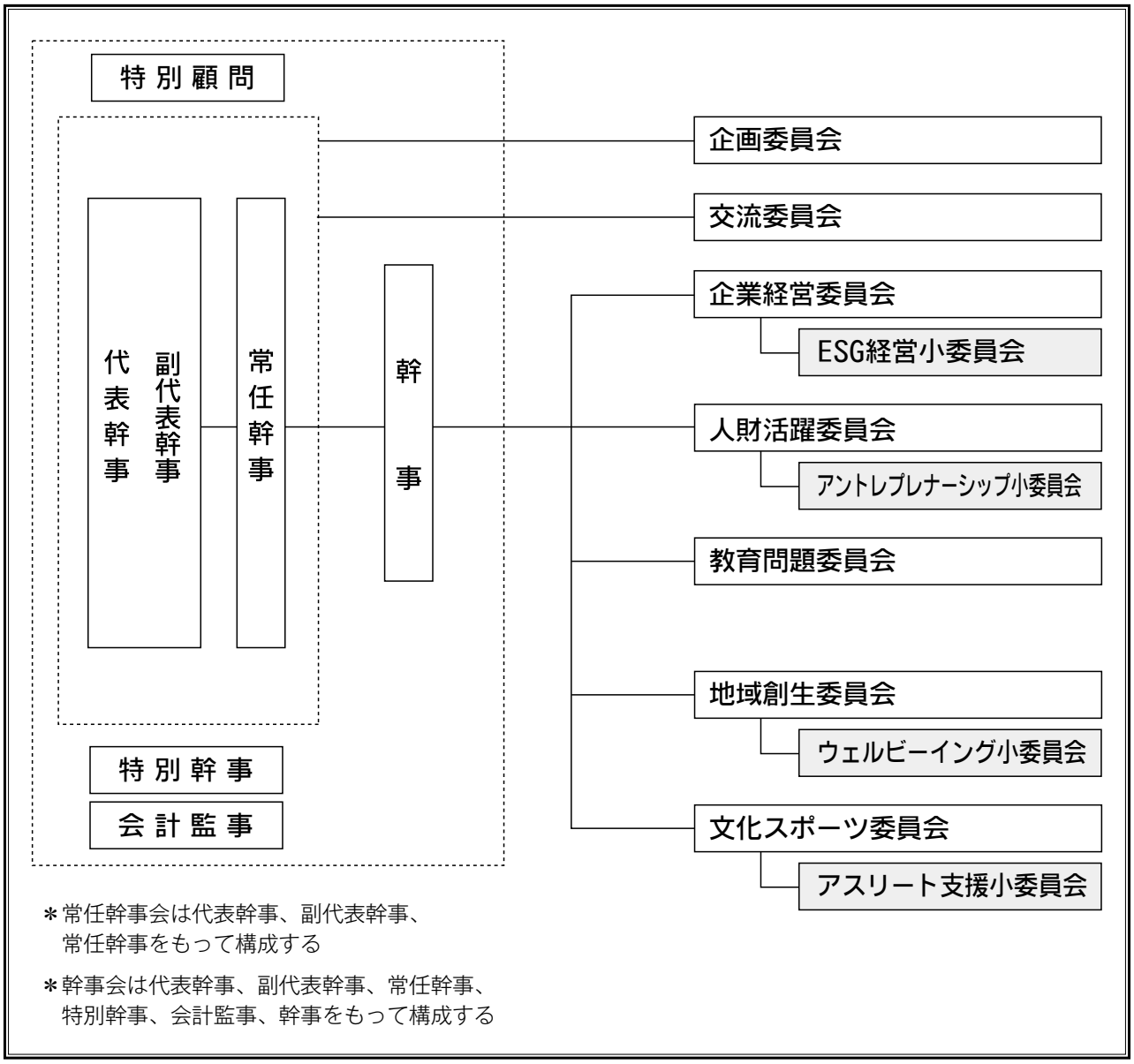
また、４つの小委員会も引き続き①ＥＳＧ経営の推進、②起業家精神の醸成、③ウェルビーイング社会の実現、④アスリートのセカンドキャリア・デュアルキャリア支援の仕組みづくりに取り組み、地域活性化に貢献いたします。

北陸新幹線が敦賀まで延伸・開業し、関東圏との交流の増加に加え、関西、中京圏を中心とした地域間交流が拡大することも期待されます。

こうした経済・社会の変化を好機と捉え、「連携」・「創造」・「行動」をキーワードに会員一人ひとりが積極的に活動し、富山の発展と日本の再生に貢献してまいります。

以上2024年度の事業計画についてご説明申し上げました。

組織図



【委員会・小委員会、委員長、担当役員】

委員会名	委員長	担当役員
企画委員会	大橋　聡司	—
交流委員会	伊東潤一郎	中沖　　雄
企業経営委員会	高木　悦郎	浅野　雅史
ＥＳＧ経営小委員会	松田　光司	—
人財活躍委員会	森　　弘吉	森田　弘美
アントレプレナーシップ小委員会	村上　宏康	中澤　　宏
教育問題委員会	土屋　　誠	稲田　祐治
地域創生委員会	池田　治郎	池田　安隆
ウェルビーイング小委員会	東出　悦子	石坂　兼人
文化スポーツ委員会	武内　孝憲	島田　好美
アスリート支援小委員会	遠藤　忠洋	山野　昌道

富山経済同友会　役員名簿
（2024年度）

（敬称略、◎は新任）

特別顧問

【特別顧問】８名

山　田　圭　藏	元 北陸電力㈱会長
古　田　暉　彦	元 北陸電力㈱副社長
中　尾　哲　雄	志道経営研究所代表
髙　木　繁　雄	元 ㈱北陸銀行頭取
久　和　　進	北陸電力㈱相談役
米　原　　蕃	米原商事㈱特別顧問
新　田　八　朗	元 日本海ガス絆ホールディングス㈱社長
塩　井　保　彦	㈱広貫堂取締役会長

役　員

【代表幹事】２名

麦　野　英　順	㈱北陸銀行特別顧問
牧　田　和　樹	㈱ MGG 取締役社長

【副代表幹事】３名（うち、新任１名）

桶　屋　泰　三	桶屋税理士事務所所長
大　橋　聡　司	大高建設㈱取締役社長
◎松　田　光　司	北陸電力㈱取締役社長

【常任幹事】10名（うち、新任３名）

稲　田　祐　治	㈱ミライノ交通観光ラボ代表取締役
池　田　安　隆	㈱池田屋安兵衛商店代表取締役
石　坂　兼　人	石坂建設㈱取締役社長
山　野　昌　道	㈱チューリップテレビ取締役社長
森　田　弘　美	㈱グループフィリア代表取締役
中　澤　　宏	㈱北陸銀行取締役頭取
中　沖　　雄	㈱富山銀行取締役頭取
◎伊　東　潤一郎	アイティオ㈱取締役社長
◎浅　野　雅　史	㈱バロン代表取締役
◎島　田　好　美	㈱島田商店代表取締役

【特別幹事】14名（うち、新任３名）

金　岡　純　二	㈱富山第一銀行相談役
林　　和　夫	朝日建設㈱取締役社長
松　原　吉　隆	大同産業㈱取締役社長
多　田　愼　一	第一物産㈱相談役
金　尾　雅　行	富山港湾運送㈱代表取締役
藤　谷　和　彦	㈱ＯＳＣＡＲホールディングス取締役会長
金　岡　　寛	金岡忠商事㈱取締役会長
若　林　啓　介	紙ぷらす㈱取締役社長
川　本　元　充	北陸機材㈱取締役相談役
久　郷　愼　治	㈱久郷一樹園代表取締役
羽　根　　由	㈱生活ネット研究所代表取締役
◎高　林　幸　裕	北電産業㈱取締役社長
◎津　嶋　春　秋	㈱アーキジオ取締役会長
◎白　倉　三　喜	富山日産自動車㈱取締役相談役

【会計監事】２名

板　谷　　聡	板谷経営工房㈲取締役社長
中　村　　厚	日本クレアスコンサルティング㈱代表取締役

【幹　　事】84名（うち、新任12名）

四十物　直　之	㈱四十物昆布取締役会長
池　田　治　郎	富山いすゞ自動車㈱取締役社長
石　倉　　央	㈱ＦＰ不動産センター代表取締役
伊　勢　　徹	㈱ライフサービス代表取締役
市　森　友　明	ＮｉＸ ＪＡＰＡＮ㈱取締役社長
稲　垣　晴　彦	北陸コカ・コーラボトリング㈱取締役会長
稲　田　裕　彦	救急薬品工業㈱代表取締役
◎稲　葉　伸　一	㈱三四五建築研究所代表取締役
井　上　敏　夫	井上機材㈱代表取締役
今　井　壽　子	㈲ゼフィール相談役
梅　川　雅　之	富山信用金庫常務理事
梅　田　ひろ美	㈱ユニゾーン取締役会長
浦　山　哲　郎	㈻浦山学園理事長

遠藤忠洋　富山交易㈱取締役社長
奥野博之　オークス㈱取締役会長
押田洋治　㈱押田建築設計事務所取締役会長
小竹秀子　オダケホーム㈱取締役社長
片山浄見　㈱富山育英センター取締役会長
川合紀子　㈲ステップアップ代表取締役
河上弥一郎　河上金物㈱取締役会長
木村準　㈱日本抵抗器製作所取締役社長
金田俊樹　㈲きんた代表取締役
黒田昭　㈱三田商会相談役
小林紀男　富山日野自動車㈱取締役会長
◎西能淳　特定医療法人財団五省会理事長
酒井郁生　㈱シー・エー・ピー代表取締役
佐藤幸博　㈱柿里取締役社長
渋谷清澄　㈱エヌエスブレーン取締役社長
島田俊晴　㈱島田樹脂代表取締役
◎相馬淳一　トーワドローンサービス㈱代表取締役
◎大門督幸　伏木海陸運送㈱取締役社長
高木悦郎　ＴＳＫ㈱代表取締役
高瀬幸忠　㈱スカイインテック顧問
髙田千明　髙田食糧㈱取締役社長
髙野二朗　タカノ建設㈱取締役社長
武内繁和　武内プレス工業㈱取締役社長
竹内茂　㈱婦中興業取締役社長
武内孝憲　㈱牛島屋代表取締役
舘直人　たち建設㈱代表取締役
◎田中悟史　㈱日本政策投資銀行富山事務所長
田中英敬　日本銀行富山事務所事務所長
◎棚田一也　北陸電力送配電㈱取締役社長
田村元宏　㈱タムラ設計．代表取締役
土屋誠　日本海ガス㈱取締役社長
寺下利宏　㈱ソシオ代表取締役
東澤善樹　とうざわ印刷工芸㈱取締役社長
中川雅弘　㈱ＫＥＣ代表取締役
永田義邦　（一財）北陸予防医学協会理事長
◎西田美樹　㈱ＰＣＯ代表取締役
◎西野晴仁　㈱福見建築設計事務所代表取締役
丹羽誠　㈲ライフプラン研究所代表取締役
◎野村充　㈱富山第一銀行取締役頭取
◎橋本淳　サクラパックス㈱代表取締役
長谷佳子　㈲小杉スポーツ代表取締役
長谷川達雄　中央薬品㈱代表取締役
◎羽根敬喜　富美菊酒造㈱代表取締役
針田正尚　クリーン産業㈱代表取締役
東出悦子　㈱アイペック代表取締役
福島鉄雄　㈱エフテック取締役社長
福田可也　㈱クレハロ取締役会長
藤井久丈　医療法人社団藤聖会理事長
細川泰郎　細川機業㈱取締役社長
本間比呂詩　オリジン工業㈱取締役社長
益田貴司　ブリーズベイオペレーション３号㈱（ホテルグランテラス富山）執行役
増山一雄　増山電業㈱代表取締役
松嶋重信　㈱司ファシリティーズ専務取締役
水口昭一郎　立山科学㈱取締役会長
翠田章男　㈱トンボ飲料取締役社長
村尾于尹　㈱村尾地研取締役会長
村上宏康　㈱ワプラス代表取締役
森弘吉　㈱エムダイヤ代表取締役
森幹男　森商事㈱代表取締役
森田幸弘　㈱押田会計取締役社長
森藤正浩　正栄産業㈱代表取締役
柳川三千代　㈱モーヴ代表取締役
山口昌広　北酸㈱取締役社長
山瀬孝　㈱ジェック経営コンサルタント取締役社長
◎山田岩男　富山電気ビルデイング㈱取締役社長
山田恵子　山田工業㈱取締役社長
山本小恵　山本司法書士事務所所長
遊道義則　㈱ユニオンランチ取締役社長
吉岡隆一郎　㈱文苑堂書店取締役会長
吉田登　北登精機㈱代表取締役
米田祐康　金剛薬品㈱取締役会長

以　上

（2024年４月24日現在）

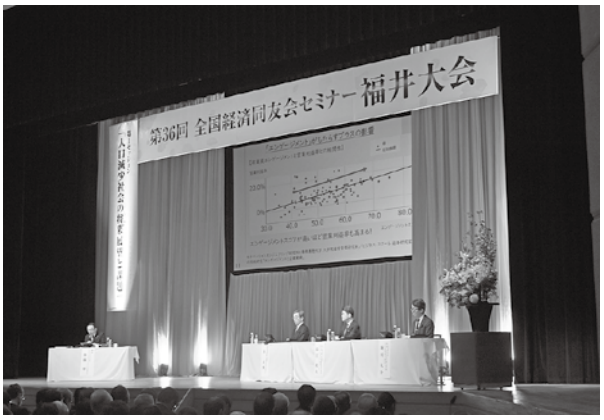
※当会では役職が代表取締役会長、代表取締役社長の場合、「代表」は省略させていただいております。

人口減少社会をテーマに約1,200人が集う
～ 第36回全国経済同友会セミナー（福井） ～

全国44の経済同友会が共催する「第36回全国同友会セミナー」が４月18日、19日の２日間、福井市のフェニックス･プラザ､コートヤード・バイ･マリオット福井で開催され､「どうする！人口減少 NIPPON ～“幸福度日本一”の地で考える～」を総合テーマに意見を交わした。

当会からは、中尾哲雄・久和進・米原蕃・塩井保彦特別顧問、麦野英順・牧田和樹代表幹事をはじめ24名が参加した。

オープニングアトラクションとして、これまでに通算９回の全米優勝を誇る福井商業高等学校チアリーダー部「JETS」が若さあふれるパフォーマンスを披露した。



開会にあたり、全国セミナー企画委員長の山下良則（公社）経済同友会副代表幹事が挨拶。続いて福井経済同友会の林正博代表幹事と杉本達治福井県知事が歓迎の挨拶を述べた。

セッションの前には、被災地報告として、金沢経済同友会の砂塚隆広代表幹事より能登半島地震の現状などについて報告を行い、金沢経済同友会として「伝えるべきは伝え、行動すべきは行動していく」とした。

第１セッションは「人口減少社会の将来展望と課題」をテーマに約１億2000万人いる人口は、このままだと2100年には6300万人にまで減少すると指摘し、8000万人を維持するために地域の若い女性の地方から東京への転出超過の是正などが必要だと訴えかけた。

第２セッションでは「人口減少時代の企業経営を考える～エンゲージメントの観点から～」をテーマにパネル討議が行われた。エンゲージメントの高い組織の実現は人材の定着と企業業績・生産性の向上につながると伝え、そのために企業は従業員との価値観の共有や環境づくりに取り組むべきであると述べた。

第２セッション後、会場を移り懇親パーティが催された。「JETS」や、OG の「チアドリームプロジェクト」のパフォーマンスや、地酒など地元の特産品をふんだんに使った福井の魅力をたっぷりといただいた。

富山ナイト

その後、恒例の富山経済同友会懇親会「富山ナイト」が福井市内の居酒屋に会場を移して行われ、ここでも地元の味を楽しんだ。

２日目の第３セッションでは「今、あらためて地域創生を考える」をテーマにパネル討議が行われた。３人のパネリストが地域創生の方向性を①仕事づくりによる雇用創出、②子育てがしやすく住みよいまちづくり、③ DX 推進による効率的なサービス・インフラの運用の３つの分野でとらえて取組事例を紹介しながら意見交換を行った。

セッション後に、角元敬治（公社）関西経済同友会代表幹事がセミナーを総括し、曹洞宗大本山永平寺副監院の西田正法氏から特別講演として『貪から貧へ』～生き方の転換～」と題し講和いただいた。その中で、人からむさぼり奪う人生(貪)ではなく､人に与え尽くす人生(貧)を選ぶべきだとお話いただいた。

閉会にあたり、次期開催地である広島経済同友会の武田龍雄代表幹事及び同会の参加者一同が次年度セミナーへの参加を呼びかけた。西行茂福井市長の御礼挨拶の後、福井経済同友会の吉田真士代表幹事が閉会挨拶を行い、２日間のセミナーが終了した。

新幹線延伸を機に全国セミナーを誘致した福井経済同友会は、駅前広場で職と工芸のマルシェを開催したり、会員がピンクのジャケットを着用し、会場の案内のみならず片町に案内ブースを設置して懇親会参加者の二次会のお店の紹介を夜遅くまで行ったりと会場以外でもセミナーを盛り上げようとホスピタリティにあふれていた。

富山の食の魅力さらに発信
谷口英司氏講演 ―3月会員定例会―

3月会員定例会を3月13日㈬、ANAクラウンプラザホテル富山で開催し、レヴォ オーナーシェフの谷口英司氏が「富山の奥懐・利賀村から発信する前衛的地方料理の進化」と題して講演した。文化スポーツ委員会が主管し、会員111名が参加した。

武内委員長

始めに、武内委員長から「地方の活性化には何が必要なのか、今回は料理の力で人や文化をつなぎ地域創生を考えるということで、国内外から注目を浴びている利賀のレヴォ オーナーシェフ谷口英司氏にお話しを伺いたい」と挨拶。

冒頭、谷口氏は、2020年12月に利賀にオープンしたレヴォについて動画を使って紹介し、「山菜取りで訪れた利賀の大自然に魅了され店をここで作ることを決意した」と述べた。オープンして3年目。年間5～6,000人が来店されていることに触れ、「富山は、全国、世界から注目されている。富山は料理人の聖地」と語り、「富山の人々に、富山の魅力を教えてもらっている。知れば知るほどいい料理になると思う」と話した。またイノシシやシカ等ジビエについて「とても美味しい。安心して皆さんに提供できるよう処理施設を建てた。安全性や美味しさの検証をしていきたい」と話した。「富山は、生産者や料理人の横のつながりがしっかりしている。他県にはあまりない。お互いに切磋琢磨している」とし、自身も阪神淡路大震災で被災した経験から、能登半島地震で被災した料理人仲間の支援のため、富山の仲間と共に企画した「フッコウメシ」についても紹介した。また、「寿司といえば富山」について質問されると「料理人が発信することは大切」であるとし、「富山の食材を使った他では味わうことができない唯一無二の寿司を作ってみるのも面白いのでは」と話した。

最後に参加者に向けて「経済人の皆様が富山のお店に行って、そして県外のお客様を富山のお店に連れて行ってほしい」と対談を締めくくった。経済人として富山の食の魅力を知り、県外の人に伝えることの大切さを再認識した。

3月会員定例会(R6.3.13)講演録

「富山の奥懐・利賀村から発信する前衛的地方料理の進化」

Cuisine régionale L'évo（キュイジーヌ レジョナル レヴォ） オーナーシェフ 谷口 英司 氏

（プロフィール）

1976年、大阪府生まれ。料理人一家に育ち、幼い頃から料理人を目指す。高校卒業後に就職したホテルでフレンチと出会い、国内外の様々なレストランで経験を積み重ねる。2010年富山に移り、2014年「レヴォ」を立ち上げる。2020年、富山県南砺市利賀村にてオーベルジュとして移転オープン。『ミシュランガイド北陸 2021』では2つ星にて掲載、『ゴ・エ・ミヨ2022』で2017年に続き2度目の「今年のシェフ賞」を受賞。

※ 基調講演

◆ 2020年末、念願の利賀で開店

山菜を摘みに来ていた利賀村、こうした自然豊かで魅力のある場所で料理を作りたいとの思いから、3年前、レヴォを開きました。大阪出身で、縁もゆかりもない富山での開店を期す原

動力になったのは、食材をはじめ伝統工芸、器など、すばらしい物がたくさんあり、料理人として聖地と感じた自身の富山愛でした。

選んだ場所は利賀村の山奥、草木がぼうぼうで、元の山の姿に帰ろうとしているような集落の跡地です。案の定､相談した皆さんからは｢やめておけ」と諭されましたが、観光を抜きに、わざわざ遠くまで来ていただけるレストランが憧れでもあったのです。

着工は2020年４月、工期は１年の見込みでしたが、コロナ禍で逆に工事がスムーズに進んだこともあり、切望した同年内のオープンに間に合いました。それは、北陸での調査を予定するミシュランに、こうした自分たちのチャレンジを評価してほしかったからです。

総工費は約５億円、一料理人として計５億6,000万円の融資を受けました。当時は実感がなかったのですが、今はこの数字を理解し、強い責任感も生まれました。

やはり山奥です。予想以上に雪がすごく、除雪で手がとられ、お客さんからは、行くこともままならない等とクレームの嵐。オープン最初の冬は営業も思うようにいかない格好でした。ただ、そうした土地柄もあって、その後はコロナ禍の最中でも影響をあまり受けることがなく、大勢のお客さんをお迎えできました。

オーベルジュという料理主体の宿を始め、いろんなメディアで紹介され、多くの賞をいただき、レヴォが富山の食の魅力を発信できたことがうれしく、自信にもなりました。

もう一つの富山のすばらしさは、人とのつながりです。今、富山の食が全国でも注目されるのは、飲食店の皆さんが団結して情報を発信できたことが大きいのです。これは、スペイン料理が、約20年前、ある料理人の出現を契機に、志を持つ者たちが賛同してそのよさを世界に発信したことで最先端の料理、ひいては美食都市として出来上がったことと似ています。

３周年のイベントとして、生産者や作家の方々を招き、日頃僕たちのレストランを力強く支えてくれるチーム「レヴォ」として感謝祭を行いました。レヴォの料理は、自分一人では到底作れません。スタッフ全員で仕上げるのですが、生産者や作家の方々の協力なしでは、料理は完成しません。

店名の「レヴォ（L'evo）」は、フランス語で「évolution（エヴォリュシオン）」､「進化」という意味です。今後も、店名が意味するとおり、進化を続けます。

料亭であれば次代の者が受け継ぐ文化はありますが、僕らのようなジャンルでは、シェフが交代すると閉店するレストランが多くあります。しかし、谷口英司という一料理人がいなくなっても、利賀村にはレヴォをずっと残していきたく思います。

※　対　　談

聞き手：
文化スポーツ委員会委員長　武内孝憲氏

◆　気の進まぬまま、富山へ

【武内】　ここからは、お話を伺いながら、谷口シェフの魅力を深掘りしていきます。
富山に来られて約13年です。神戸からリバーリトリート雅樂倶に移られ、レヴォを開店、そしてオーベルジュとして利賀村に移られるまでの

経緯をもう少しお願いします。

【谷口】　富山へのお誘いは、半ば強制的なものでした。最初は何の魅力も感じず、料理をしている都会が大好きでした。隅っこに追いやられる気がしてすごく嫌で、実は何度かお断りもしました。取りあえず、行ってみようという程度でした。

雅樂倶がフランスの三ツ星レストランと提携してお店をオープンされ、日本人シェフとして入ったのですが、食材はフランスから空輸、お皿もカタログで取り寄せた有名食器メーカーの物を使いました。それが僕の中ではステータスで、富山の物には見向きもしませんでした。また、いい物を食べているから舌が肥えていると言われた富山の人に対して、逆に、もっとフランス料理を教えてやろうというぐらいに、天狗になっていました。

そんな中、ある生産者から面白い食材があると申出がありました。フランス産に比べて魅力がないと思いつつ行かせていただいた現場で衝撃を受けました。一つの野菜を収穫するまでの大変さに初めて気づき、無知を恥じる一方で、好奇心がかき立てられました。その後、いろんな方々に教わることで富山の魅力を知り、「富山って、すげー」という思いが芽生えると同時に、このすばらしい物を使って料理がしたい、そして全国の方々に伝えたいと正直に思いました。そこで、富山県産の物だけを使って、雅樂倶でオープンさせていただいたのが以前のレヴォです。

【武内】　富山の食材を使い、自分の思いを貫き通せるお店を利賀につくられた。「星、空、雪、山、水、土。すべてが食につながる」、レヴォのこのコンセプトが意味するところと目指されている世界観をお話しください。

【谷口】　利賀村での大変な経験は、自分たちの武器やたくましさとなり、今の料理にも表れています。都会は情報量も便利なことも多いですが、それは都会の武器であり、そこと勝負をする必要はありません。海に山に、身近には富山の物が間違いなくあります。

昔は自分の技術で料理がおいしくなると勘違いしていました。今は、富山を知るほどレヴォはよくなると信じています。結果的に、大勢のお客さんに来ていただけました。

【武内】　オーベルジュで出される朝食は、利賀のお母さんたちが作られるような郷土料理ですが、それに対するリスペクトがあるからですね。

【谷口】　大阪出身で、こうした料理をいただく機会があまりなく、衝撃的でした。料理がお上手で、見たこともない食材、調理法や保存の仕方が大変勉強になりました。ですから、お客さんには少しでも利賀村を味わっていただきたく、朝食には利賀のお母さんたちをリスペクトした料理をご提供したいと考えたのです。

◆　ジビエの活用

【武内】　進化を遂げている料理で、いわゆる自慢の一皿もあると思いますが、レヴォの料理の特徴についてお話しください。

【谷口】　山奥ですので、多くのジビエが届きます。ただ、ジビエは普及したといっても、一般の方々には依然としてなじみのない食材です。ジビエに関しては、精肉への加工に至るまで全て自分で行います。だからこそお肉のよさが見

えます。一般の家畜と違ってルールがないので、病気や寄生虫が怖いとよく言われますが、そうした懸念をなくすように、ジビエの処理施設を建て、そこで処理をした物を精肉にして販売できるようにしています。保健所にも認可をいただいておりますが、検証の余地があるのが実情です。

今後、富山県の食肉機関や関係者にご協力いただき、ジビエの安全性に関する検証を一層進め、従来食しなかった物のおいしさに気づくこと。家畜も大事な食材ですが、時代とともに、自然にそういう持続可能な物を取り入れていくのはいいことです。

【武内】　ジビエも土地の恵みを日々食しているのでしょうが、それでその味や処理の仕方も変わってくるのでしょうか。

【谷口】　不健康な動物は内臓に異状があるので使いません。最近気づいたのですが、生け捕りにして、しめたときの血の様子は人と一緒です。年老いていると、どす黒くて、どろどろしていますが、若いと真っ赤な鮮血が流れます。人間の健康診断と同様に、動物も血液が全てなのかもしれません。ジビエは赤身が多く、血が重要な成分になりますので、それが正常で健康な、おいしいお肉の提供を目指しております。

◆　チーム「レヴォ」が生む好循環

【武内】　レヴォはチーム力で勝負しているとよく言われますが、どのような出会いがあり、また支えになっているのでしょうか。

【谷口】　都会にいたときは、見つけた食材や器は人に教えたくないし、同じ物を使ってほしくもありませんでした。しかし、富山が独特なのは横のつながりを大事にされているところで、いろんなことを教えてくださると痛感しました。ですから、今はオープンにしていますし、料理を通して知られた生産者や作家の方々の物が売れて、みんなで有名になれればいいと思います。そうなれば、お互いのレベルも一層上がります。実は、富山県の野菜の産出額は全国で最下位です。まねごとのように栽培されていた西洋野菜を僕の技術を駆使して生産者に食べていただくと、その違いを認識され、次回おつくりになる野菜の味が格段に上がります。これが今のレヴォの料理にも表れています。皆さんが成長されて、いい物がとれれば、料理人はあまり手をかけずに済むようになります。

フランス料理には、食材に様々な手をかけて極限までおいしさを求めようとする文化があります。そうした料理人の僕が、富山に来て大変使いづらい食材がシロエビ、ホタルイカ、ブリの３つです。食材として満点なので、それをお出しするだけでお客さんは喜ばれます。ですから、逆にそうした食材は少し手を加えるだけでいいのかなと、富山に来て料理の考え方や見方も変わりました。

【武内】　お料理によって生産者もおいしさを追求するという好循環になっています。チーム「レヴォ」の方々が、谷口シェフに対するリスペクトがすごいのは、独占するのではなく、よいものをどんどん外へ発信されているからですね。

そうした中で、レヴォでお使いの器が有名になり、その作家さんのレベルも上がる。また、料理もその器によって映えるところがあります。富山の作家さん、器と料理についての思いをお

聞かせ願います。

【谷口】　作家さんにはレヴォで使う器をとお願いするだけで、細かな指示を出すことはありません。それは作風を大事にしたいからです。僕の料理を十分ご存じなので、信頼しております。レヴォ向けに面白い器をお作りいただくことが喜びで、食事をされたお客さんに、その作家さんの作品を買ってもらえれば、ここでもいい流れができます。

◆　最前線での料理が使命

【武内】　「自分は料理人だ」とおっしゃいます。料理人として大事に思われること、そして人や社会にどのような影響を与えるとお感じでしょうか。

【谷口】　どれだけ有名になり、お店が大きくなっても、最前線で料理をすることが料理人としての僕の使命で、その姿を次の若い世代に見せることが大事だと思います。経営ではなく、料理人としてプロフェッショナルでありたいのです。

【武内】　そういう思いの中で、お料理を通して地域の魅力を伝え、その土地を深く理解しようとされていますね。

富山の料理人の横のつながりについてお話になりました。大変仲がよいように見えますが、それはよくあることなのでしょうか。

【谷口】　大変珍しいことで、年が近いこともありますが、それ以上にライバルで、いろんな共有や競争ができるいい環境です。

◆　「すし」、なぜ富山湾にこだわる

【武内】　切磋琢磨が今の富山の食のレベルを上げていると。

以前、国内で食で注目を集める場所は富山、もう一つは浜松とおっしゃいましたが。

【谷口】　静岡ですね。富山と同様に、地域環境として深い海と高い山があり、食材に大変恵

まれている中で、多様な料理人が集まっているからです。

実は高低差で言えば、富山は全国で２番目、富士山と駿河湾を持つ静岡が上回ります。ただ、富山の山海間の距離の短さは比類がなく、山から一気に海に注ぐ水は貴重です。

【武内】　今、富山と言えば「すし」という流れがあります。それも期待されますが、まだ気づかない富山の食の魅力はどのように発信すればよいのでしょうか。

【谷口】　休日によく食べに行くほど、おすしが大好きです。今富山県が進めるおすしのプロジェクトは料理人として応援したいのですが、先ほどの流れから言いますと、すし職人さんのほうから発信していただきたいのです。

富山のますずしが大好きで、すごい文化だと思います。しかし、お店は徐々に減少しています。今後増加するインバウンドのお客さんにとっても魅力的でしょうし、もちろん新鮮なおすしも武器になります。

富山だからこそできるおすしとは何か、一つアドバイスではありませんが、「魚介だけじゃないですよね」ということです。

おすしは、江戸前の東京には多分かなわないでしょうし、お隣の金沢もその文化、お店の数は群を抜いています。そうした中で富山のおすしの魅力を伝えるのに、なぜ富山湾にこだわるのかな。これほど多様な山菜、お肉もあるのに、

それをなぜ握ろうとしないのかなと少し残念に思います。それだけでも富山ならではのおすしになるはずです。年末にツキノワグマをネギトロのようにして食べたのですが、とてもおいしかったですよ。

【武内】　富山の食材を突き詰めたおすしですね。

【谷口】　そうです。唯一無二の魅力になります。おすし屋さんが海の近くにある必要はなく、山の中にぽつんとあれば、逆に多くのお客さんが訪れるかもしれません。

◆　料理人としての復興支援

【武内】　コロナ禍の際には、苦境にあえぐ方たちの支援に「セントウメシ」をお作りになりました。そして、今回は能登地震の被害に対する支援のために「フッコウメシ」の提供を４月から７月までの毎月１日に料理人仲間で企画されていますね。

【谷口】　実は、神戸で旅館の朝食準備中に大震災に遭いました。爆弾でも仕掛けられたのかと気が動転して逃げ出す中、職場の建物が崩れていくのを見ました。

こうした経験から、能登地震に遭った、志ある料理人を助けたいと。それがチーム「北陸」としての力にもなるだろうし、僕らに何かあったとき、今度は彼らが力を貸してくれると信じて、チーム「富山」の料理人で、料理の販売を通して集まった寄附金を全額、能登の飲食店に寄附することにしました。ご協力いただけると、非常にありがたいです。

◆　県内飲食店の一層利用を

【武内】　今後は、どう進化していきたいとお考えですか。

【谷口】　利賀村でのオープンから３年がたち、次のことを考える時期に来ています。お声がけを多くいただきますが、富山から出ていくこと、そして、他でレストランやプロデュースをすることもありません。次の進化の場所も富山です。現実になるかどうかは分かりませんが、今度は夏、期間限定で富山の海の魅力を伝えるレストランもいいと考えております。

【武内】　最後になりますが、我々にメッセージをお願いします。

【谷口】　これからは、都会にばかり食べに行かずに、富山県内の飲食店をもっと活用してほしいのです。富山の店を熟知していると言われるような方は、まずいらっしゃいません。でも、皆さん方だからこそそうであってほしいし、いろんな方々に紹介して、自慢していただきたいのです。喜ばれるような料理をお出しできるように日々努力いたします。

【武内】　皆さん、ぜひよろしくお願いいたします。私たちも食を通して富山を発信できるように応援していきます。

本日は、どうもありがとうございました。

【谷口】　ありがとうございました。

SDGs

半年間の学びを発表
～スケッチオーデション予選・決勝大会～

●スケッチオーデションとは・・・

富山経済同友会（アントレプレナーシップ小委員会）、とやま未来共創チーム、富山ニュービジネス協議会、富山大学が共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテスト。昨年10月からグループワークや講義を通して、ビジネスプランの考え方のインプットとアイデアのブラッシュアップがなされてきた。

プログラムの総合プロデューサーを冨田 欣和氏（関西学院大学 専門職大学院経営戦略研究科 教授）が務めるほか、毎回ゲスト講師による特別講演も開催された。

Day７（予選大会）、Day８（決勝大会）が開催され、優勝、準優勝、特別賞、メンター賞に加え、新設の MIP 賞が決定した。

● Day７（予選大会）〔３月16日㈯〕

予選大会は富山大学 黒田講堂で開催された。最終的に18組のエントリーがあり、予備予選を通過した16組がプレゼンを行った。審査員は、富山経済同友会（アントレプレナーシップ小委員会）のほか、富山ニュービジネス協議会、とやま未来共創チーム、富山大学の主催団体から選出された。

塩井会長挨拶

予選大会冒頭に富山ニュービジネス協議会 塩井会長が「今持っている志を今後も持ち続けてプランの実現に向けて努力して欲しい。これからの日本では新しい事業、ビジネスを持った方が主役にならないといけないので、是非とも頑張って欲しい」と一同にエールを送った。

予選大会は７分間のプレゼンと３分間の質疑応答で進められ、出場者は半年間の学びを活かしたビジネスプランや熱い想いを発表した。プレゼン後に審査員から質疑やフィードバックがなされ、会場は大いに盛り上がった。

出場者のプラン内容は甲乙つけがたく、審査は難航したが、予選大会から８組が勝ち上がり、決勝大会に進出することとなった。

終わりに、富山大学　武山副学長がプレゼンを通しての講評と明日の決勝大会に進出するファイナリストへ激励の言葉を送り、予選大会を締めくくった。

● Day８（決勝大会）〔３月17日㈰〕

決勝大会はホテルグランテラス富山で開催された。予選大会を勝ち上がった８組がプレゼンを行い、当会の会員のほか、富山ニュービジネス協議会、とやま未来共創チーム、富山大学からも多くの関係者が駆け付けた。また、決勝大会も予選と同じく７分間のプレゼンと３分間の質疑応答の時間が設けられ、審査員にはベンチャーキャピタルやスタートアップ企業経営者の４名が担当した。

初めに、麦野代表幹事から開会挨拶があり「今回も高校生から社会人の幅広い方から参加があり、５か月間講義やワークショップを行いメンターや講師からの特別講義や支えにより今日を迎えられた。昨年12月の年末定例会の場では経済人がいる中で、挑戦者の高校生が堂々と意見を述べており、本当に頼もしく成長していると感じた。

麦野代表幹事

先週の予備予選、昨日の予選を通過した８組のプレゼンに期待している」と一同を激励した。また、藤井富山市長は、「意欲的な人材が失敗を恐れることなく挑戦し、周囲の皆さんが支える、そのことが新たな起業家やスタートアップ

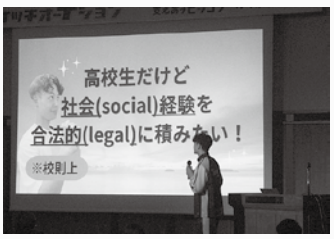
企業の創出に寄与する」と来賓の挨拶後、決勝のプレゼンが行われた。

藤井富山市長

８組のプレゼンからは、お家の終活支援サービスやＡＩを用いたメニュー紹介サービスなど創意工夫に富んだプランが提案された。審査員からの質疑やフィードバックも活発になされ、出場者からは真摯に受け答えする様子が伺えた。

また、審査結果の集計の間には、メンターの取組み報告や、過去のスケッチオーデションの受賞者からの近況報告などがなされた。

厳正な審査の結果､優勝は高校生が(校則上)合法的に社会経験を積めるプログラム｢Sogal｣を提案した小倉魁透さん（高校３年生)、準優勝は製造業のCO２可視化サービス「Factory GX」を提案した寺田和真さん（大学院２年生)、特別賞は感謝カレンダーアプリ「Thanksnao」を提案した中島菜緒さん（大学２年生）に決定し、若者が躍進した大会となった。また、挑戦者から選出された最も貢献度合いの高かったメンターとして大塚健仁氏にメンター賞、決勝大会に進出できなかったが、このプログラムでの取り組みや成長が評価され、石崎心結さんと、青木結さん・西野美悠さんペアにＭＩＰ賞が贈られた。



その後、総合プロデューサーの冨田氏から総評があり、「去年は予選大会で落選した子が、もう一回挑戦して優勝した。私が関わってから３年になるが、何度でも挑戦できること、何度でも支え合うことが根付いてきたと思う。他のビジネスプランコンテストとは異なり、仲間づくりも特徴であり、今後も回を重ね、更に多くの方に参加してほしい」と述べた。

冨田教授

最後に、牧田代表幹事から閉会挨拶があり「決勝進出者のプレゼンや、MIP賞受賞者のプレゼンを聞き大変刺激を受けた。この場はアントレプレナーシップを醸成するビジネスコンテストであり、これからアントレプレナーになるには顧客起点でイノベーションとマーケティングを考えて欲しい。今回も大勢の方のおかげで無事終えることが出来たことに感謝する。」と決勝プレゼンテーションを締めくくった。

牧田代表幹事

終了後、主催団体の経営者と参加者、メンター、審査員、先生方とが活発に意見交換を行い交流を深めた。スケッチオーデションのコンセプトである「仲間と学びあい支えあう」が実現した日となった。

オーデション参加者の近況報告
～平和を願うオリーブ大植樹プロジェクト～

スケッチオーデション2021の特別賞受賞者、2022での決勝進出者である北山卓司氏が、「スケッチオーデション」で発表した耕作放棄地でのオリーブ栽培事業を能登半島地震復興支援のために行う予定であり、過去のスケッチオーデション参加者のプランが実際に動き出しております。また、このプロジェクトは現在クラウドファンディングで支援者を募っておりますので、興味のある方は下記サイトをご確認ください。

【能登半島地震】あなたもオリーブオーナーに！平和を願うオリーブ大植樹プロジェクト
https://www.makuake.com/project/oganicbase_ishikawa１/

SDGs
8 働きがいも経済成長も

外国人材活用の先進事例
～第３回人財活躍委員会（浜松視察）～

４月４日㈭～５日㈮、第３回人財活躍委員会（森弘吉委員長）として、静岡県浜松市の視察を実施し、11名の委員が参加した。

【１日目】

＜ソミックマネジメントホールディングス㈱＞

１日目は、自動車部品製造業のソミックマネジメントホールディングス㈱を視察した。

同社の石川代表取締役のご挨拶の後、４名の外国人従業員との意見交換会を実施した。

石川代表取締役

外国人の採用を行う上で気を付けることとして、専門性を活かすために日本人の面接よりも回数を増やし、業務としっかりとマッチングすることを心掛けることであると述べた。

また、同社では日本人従業員向けに「やさしい日本語講座」を行っており、外国人にも伝わりやすい日本語を使うことで双方が歩み寄ることが、円滑なコミュニケーションを図るポイントであるとも述べた。

＜浜松経済同友会 /e コモンズ＞

会場を移り、浜松経済同友会との合同例会を行った。最初に麦野代表幹事より「視察を快く受け入れ頂き感謝申し上げる。同じ工業県同士似たところ、同じ悩みがあると思う。まずは浜松経済同友会の先進的な取り組みを見て感じ取りたい」と開会の挨拶があった後、静岡大学の島田特任教授より、静岡大学アジアンブリッジプログラム（以下 ABP）と留学生就労状況についての講演があった。ABP は静岡大学が行う外国人向けのプログラムであり、学生の入学金や授業料を取らず、卒業後に地元に残ってもらう取組みであり、島田氏は「留学生は覚悟を持って日本に来ており熱意はある。言葉が通じずうまくいかないところはあるが別の視点で評価してもらえればさらに留学生に活躍してもらうことが出来る」と述べた。

麦野代表幹事

島田特任教授

続いて、e コモンズについて現在の定着状況も含め金子事務局長より説明いただいた。「静岡には ABP のおかげで優秀な留学生が多くいるが、多くは首都圏や大手企業に就職しており、地元企業への PR 不足や知名度がないため就職率は低くなっている。その課題を解決すべく、留学生を対象とした就労支援体制が必要であることから提言を行い e コモンズの設立につながった」と説明があり、インターンシップのコーディネートなどの就労支援や就職以降のサポートサービスなどを提供していることが紹介された。また、「日本語が話せないからと門前払いをするのはもったいない。入れることによってイノベーションが起こるので、企業側はマインドを変える必要がある」と説明を締めくくった。

金子事務局長

＜浜松経済同友会との懇親会＞

合同例会に続き、浜松経済同友会の例会参加者と懇親会を実施した。まず浜松経済同友会の須山代表幹事が開会の挨拶で、「e コモンズは当時の市長の協力もあり、産学官がうまく回っている。富山でもぜひやってもらいたい。今回の訪問を心より歓迎する」と述べ、当会の高林副代表幹事が、「e コモンズが貴会の提言を実現しており、大変感銘を受けた。富山でもたくさんの提言を出しており、実現につな

須山代表幹事

高林副代表幹事

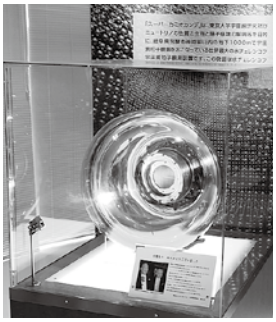
中村副代表幹事

げたい」と述べた後、乾杯を行った。閉会挨拶では浜松経済同友会の中村副代表幹事が「今日の交流をきっかけに今後も更に付き合いが繋がるようにしたい」と話し、会を締めくくった。

【２日目】

＜浜松ホトニクス㈱中央研究所＞

２日目の午前は、浜松ホトニクス㈱の中央研究所を視察した。まず、豊田所長より同社の事業内容について説明を受けたのち、カミオカンデで実際に使用された光電子倍増管を見学した。その後、同所の各研究室で行われている内容、応用先についての説明を受け、同社の先進技術について理解を深めた。


20インチ光電子増倍管

＜㈱ヤマザキ＞

午後は、専用工作機械メーカーの㈱ヤマザキに移り、まず山﨑代表取締役より同社の説明を受け、実際にｅコモンズを活用して入社した従業員との意見交換を行った。

山﨑代表取締役

同社はベトナムにも現地法人があり、ベトナムとの企業内転勤、技能実習、高度外国人材の３つの方法で外国人材のサポートを行っているが、文化の違いがわからず試行錯誤しながら行っているとのことであった。

今回の視察を通じて参加者は各社の外国人材採用状況・定着に向けての取組みについて理解を深めるとともに、浜松経済同友会との交流を図るなど充実した視察となった。

一年目の委員会活動を終えて
～第４回委員長連絡会議～

４月９日㈫、まいもん洞において、第４回委員長連絡会議（高林幸裕企画委員長）を開催し、委員長６名が参加した。同連絡会議は委員長相互の情報共有・連携・啓発を目的に四半期に１回開催するものであり、今回は４回目。

冒頭、高林委員長は挨拶の中で、「2023年度は、会員ニーズを満たし委員長が能力を発揮しやすい体制の構築を図るため、小委員会の設置と担当役員の配置を行った。委員会が７月から始まったにも関わらず、12月までの委員会参加率は、前年比で1.42倍となっており活発に活動されている。講演会の開催だけでなくディスカッションの場を多く設けるなど工夫して運営されていることを常任幹事会で報告した」と説明。その後、各委員長が１年目の活動内容と今後の活動予定について報告した。２年目の活動については、視察の予定や他団体との連携、意見書や提言書の作成等、現時点で予定していることに触れ、日程なども含め情報交換を行った。

SDGs 11 住み続けられるまちづくりを

「一流の地方」を目指し人文知を働かせよ

―第６回文化スポーツ委員会―

第５回文化スポーツ委員会（武内孝憲委員長）を３月21日㈭、富山電気ビルデイングで開催し、委員35名が参加した。今回は、元岡山経済同友会代表幹事で、大原美術館名誉館長の大原謙一郎氏が「あきんどの知恵と誇りと人文知　―イザというとき　これがモノ言う―」と題して講演を行った。講演の前に中尾特別顧問が「富山経済同友会が三山会（みやまかい）※1で岡山を訪れた際、大原美術館で会食をさせていただき大変お世話になった」と大原氏を紹介。講演では、岩瀬にあった倉敷レーヨンの工場について、「繊維の原料を作っていた地味で縁の下の力持ちとなる工場であった。父の大原総一郎は、職員の心の支柱となるようニーチェのツァラトゥストラの中に登場する鷲と蛇の絵を福光の棟方志功に依頼し、岩瀬の工場の入口に飾っていた」と紹介した。

大原 謙一郎 氏

武内委員長

「あきんどは人文知※2を身に付け、精神の本質を見極め、色々なことに目配りしながら進めることが大切である」と語り、また「世界の一流の国には必ず一流の地方がある。倉敷が一流の地方の一つとしてあり続けたい」と話し、富山と倉敷、共に一流の地方を目指し頑張ろうと参加した委員の士気を高め講演を締めくくった。

※1 三山会とは、和歌山・富山・岡山の３県の経済同友会で組織した会。各県で交流会を開催。２巡し、計６年間続いた。

※2 人文知とは、文化を愛で、芸術に親しみ、人文学を身に付けることを通じ、自ら人の心の中に生まれる、しなやかで強靭な「知の力」である。～著書「人文知」を考えるより～

SDGs 8 働きがいも経済成長も

県と部活動応援について意見交換

～第４回アスリート支援小委員会～

３月19日㈫、富山県民会館において、第４回アスリート支援小委員会（遠藤忠洋委員長）を開催し、委員14名が参加した。

遠藤委員長は、冒頭に、２月に実施したアスリート支援に関するアンケート調査の結果（回答企業数103社）について説明し、「アスリートの採用について関心がある企業は多く、プロスポーツで培った強靭な精神力や集中力、協調性を期待するとの回答があった。富山で活躍したスポーツ選手が引き続き富山の企業で活躍してもらうことを目標としている。アスリートと企業を繋ぐマッチング組織について、調査、研究したい」と話した。会議の後半は、「富山県部活動応援企業事業」について県からの説明を受けた。出席した県教育委員会保健体育課山谷主幹は冒頭、

遠藤委員長

「子供達の部活動機会を持続するため企業の方にお力をいただきたい」と挨拶し、事業内容を説明した。出席した委員からは、「勤務時間内での派遣は小さい会社ではなかなか難しい」「指導者の責任の範囲は？」「制度になると企業は構えてしまう」等の質問や意見が出された。部活動は、生徒の多様な学び場としても重要な機会であることは認識しているとした上で、「指導者については、学校が、地域、OB・OGを含め各方面に協力を仰ぐことも有効では」との意見が出た。最後に、遠藤委員長は、「県教育委員会には本日の企業側の意見についても参考にして制度運用して欲しい。子供達にとって部活動は大切であり、我々も企業として協力できることはしていかなければならないと思う」と述べ、委員会を締めくくった。

SDGs

カードゲームで学ぶ！カーボンニュートラル
― 第３回ＥＳＧ経営小委員会 ―

第３回ＥＳＧ経営小委員会(松田光司委員長)を４月３日㈬、オークスカナルパークホテル富山で開催し、委員23名が出席。カードゲームを使用したワークショップ形式で、カーボンニュートラルに関して知見を深めた。

松田委員長

カーボンニュートラル カードゲームは、北陸電力㈱が開発・制作。地球温暖化の原因となるCO_2の排出削減を競うもので、同社では、小学校での出前授業でも活用し、子どもたちが皆で楽しくカーボンニュートラルについて学ぶ機会を提供している。冒頭、松田委員長は、「子ども向けではあるが、大人も楽しみつつ学びを深めることができる内容になっている。脱炭素化に向けた企業活動の更なる推進につなげるとともに、これからのSDGs教育について考えるきっかけとしたい」と挨拶した。

その後、北陸電力㈱地域共創部の方々の説明のもと、４名ずつのグループにわかれカードゲームを実践。ポイントの増減に一喜一憂しながらも、電源毎の特徴やCO_2排出削減につながる施策等、カード上の情報に気付きや学びの声が挙がりつつ、賑やかに対戦が繰り広げられた。ゲームの終盤では、大人向けにアレンジしたカーボンニュートラル・クイズも盛り込まれ、ゲームの勝敗が決した後、成績上位者の表彰が行われた。

終了後は、委員らがカードゲームを体験しての意見や感想を自由に発表。カードゲームで学んだこと、自社での取組み、カードゲームに関するアイディア等、様々な声が寄せられ、非常に活気あり意義ある活動となった。

活 動 報 告
３月１日～４月30日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内　　容	出席者
３月13日㈬ 16：30～20：10 ANA クラウンプラザホテル富山	３月幹事会・会員定例会（文化スポーツ委員会主管） 講師：レヴォ　オーナーシェフ　谷口 英司 氏 演題：「富山の奥懐・利賀村から発信する前衛的地方料理の進化」	111名
４月16日㈫ 16：00～16：50 富山電気ビルデイング	４月幹事会	46名
４月24日㈬ 16：30～20：00 ANA クラウンプラザホテル富山	2024年度定時総会・懇親会	約200名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内　　容	出席者
３月16日㈯ 13：00～17：45 富山大学黒田講堂	アントレプレナーシップ小委員会	スケッチオーデション（予選大会）	11名

開催日時・場所	委員会名	内　　容	出席者
3月17日㈰ 14：00～18：30 ホテルグランテラス富山	アントレプレナーシップ小委員会	スケッチオーデション（決勝大会）	13名
3月19日㈫ 17：00～20：15 富山県民会館	第4回アスリート支援小委員会	・アスリート支援、採用に関する会員アンケート結果報告と今後の活動について ・富山県部活動応援企業事業についての事業説明	14名
3月21日㈭ 17：00～19：45 富山電気ビルデイング	第6回文化スポーツ委員会	講師：（一財）人文知応援フォーラム 代表理事･会長　大原 謙一郎 氏 演題：「あきんどの 知恵と誇りと 人文知－イザというときこれがモノ言う－」	35名
4月3日㈬ 17：00～20：00 オークスカナルパークホテル富山	第3回ＥＳＧ経営小委員会	テーマ：カーボンニュートラルカードゲームを体験し、ＳＤＧｓ教育を学ぶ	23名
4月8日㈪ 14：00～15：00 事務局会議室	ウェルビーイング小委員会 第3回正副委員長会議	2024年度活動計画について	3名
4月4日㈭ ～5日㈮ 静岡県浜松市	第3回人財活躍委員会（県外視察）	視察先：㈱ソミックマネジメントホールディングス、浜松経済同友会／ｅコモンズ、浜松ホトニクス㈱、㈱ヤマザキ	11名
4月9日㈫ 16：30～18：00 まいもん洞	第4回委員長連絡会議	令和5年度委員会活動総括	6名
4月12日㈮ 18：00～19：00 富山県民会館	文化スポーツ委員会 第6回正副委員長会議	今後の委員会活動について	5名
4月23日㈫ 16：00～17：30 事務局会議室	地域創生委員会 第6回正副委員長会議	2024年度活動計画について	7名

○同友会諸会合

開催日	内　　容	場　所	出席者
4月18日㈭ ～19日㈮	第36回全国経済同友会セミナー （福井経済同友会主管）	福井県福井市	24名

○その他の会合

開催日	内　　容	場　所	出席者
3月4日㈪	カターレ富山「キックオフパーティ2024」	ホテルグランテラス富山	麦野代表幹事
3月14日㈭	リサイクル認定検討会	富山県民会館	上田事務局長
3月26日㈫	令和5年度富山県ＳＤＧｓ推進連絡協議会	富山県民会館	上田事務局長
4月20日㈯	富山県遼寧省友好県省締結40周年記念祝賀会	とやま自遊館	牧田代表幹事
4月23日㈫	富山県市町村新任職員研修（講師）	富山県市町村会館	張田 真 氏
4月25日㈭	成長戦略カンファレンス選定委員会	オンライン	上田事務局長

リレーエッセイ⑲

環境に携わることになったきっかけ

東　澤　善　樹
（とうざわ印刷工芸株式会社　取締役社長）

2009年、富山経済同友会に私の父からの交替会員として入会し、私が最初に入った委員会は環境問題委員会でした。その頃の私からすると周りは富山の経済界の著名な方ばかり。とても緊張する中で、当時環境問題委員会の松波委員長とは富山ユネスコ協会で親しくさせていただいており、そして私自身が環境や自然保護に関心を持っていたこともあって、真っ先にこの委員会を希望したことを覚えています。

その富山ユネスコ協会では毎年秋に「学生弁論大会」を開催しており、富山県内の中高生が福祉や環境、平和をテーマに自分の経験や取り組みを発表する場となっています。私は大会のお世話をしながら生徒さんの弁論に耳を傾け毎回感心させられていたのですが、翻って私が学生の頃はそうしたテーマには全く関心なく、機械いじりばかりしておりました。ではなぜ環境に意識が向くようになったかというと、大学卒業後のドイツでの体験が元になっています。

皆さまご存じの通り世界史で習う印刷術の祖はドイツのグーテンベルク、一方この業界内で有名な印刷機はドイツ製で、私は「印刷ならとにかくドイツ」と思い込み、さらに「あわよくば印刷単科大学に行けたら」という希望も持って1989年（平成元年）単独で渡独しました。

現地でまず通ったのは、外国人向け大学予備校的な語学学校です。読み、書き、聞き取り、会話（ディスカッション）を高密度に学び入学試験に備えるのですが、そのテーマは先生の好みだったのか、いま覚えているだけでも「酸性雨」「シュヴァルツバルト（黒い森）の自然保護」「自動車交通と大気汚染」そして当時はまだ新しいテーマだった「地球温暖化」等々、これらの長文読解をし、授業で聞き取り筆記し、その後隣りの外国人たちとディスカッションすれば、その歴史や問題・課題まで自然と頭に入ります。

そうした授業後に街なかに出ると、自動車を使わなくていいように市内電車とバスが見事に連携し、「環境定期券」で乗り降り自由な公共交通網があり、乗ったバスから見える交差点には「Motor Stop」（＝信号待ちエンジン停止）と書かれた信号機が設置され、今でいうアイドリングストップがすでに先取りされていました。

そして、やれやれホームステイ先に帰ると、そこのおばさんから、ゴミは生ごみ（食品くず）、その他と、再生に回す紙・ビン（無色・有色）・缶はきっちり分けてね、食器洗いは水をジャーと流さず、ためた水ですすいでね、と言われ、おじさんからは、食事の最後にパンで食器を撫でればパンもおいしいし、食器洗いも簡単だよ、（この理屈はこのおじさんだけかもしれませんが）と教えられ、外でも家庭でも環境保全の基礎と実践を叩き込まれたといった感じです。

さて、その後大学には無事入れたのですが、滞在中に一番身についたことは、現地で暮らす中での「環境への取り組み」とそれに向けた「街の仕組み」で、それから20数年を経て環境問題委員長を受けさせていただいた４年目の2017年には委員会としてドイツ環境視察を実施、その知見を基に委員会の皆さまと一緒に2018年春には環境提言を出させていただくことができました。では印刷の知見は？と問われると、「社会勉強してきました」と答えています!!

（次号は株式会社 JTB 富山支店長の山崎良人 様です。）

会 員 の 入 退 会　（3月・4月幹事会）

1．最近思うこと
　（社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど）
2．生活信条（座右の銘等）
3．趣味

入　会

青池浩生（あおいけひろき）
学校法人青池学園
理事長
（紹介者：中尾哲雄氏
石倉 央氏）

1．日本の未来、将来を担う子どもたちに、より良い教育環境を提供し続けていきたいと思っています。
2．人間万事塞翁が馬
3．散歩、旅行、食べ歩き

大澤恒寛（おおさわつねひろ）
フレンドリー・
エレバテック㈱
代表取締役
（紹介者：浅野雅史氏）

1．本年、会社名変更と社長に就任。今後は、ものづくり富山の昇降機メーカーとして、安全性の高いエレベーターを提供し、更なる技術力を持つ企業として発展させていきます。
2．はいか、YES か、喜んで！
3．スノーボード

鈴木　真（すずきしん）
㈱鈴木亭
代表取締役
（紹介者：石倉　央氏
武内孝憲氏）

1．社長に就任して５年。コロナ、原材料価格の高騰、能登沖地震と変化が激しい日々です。そんな中、生活に困っている方々に貢献したいと思っています。
2．まずはやってみる
3．テニス 古物収集 ピアノ

矢澤剛志（やざわごうし）
アルコット㈱
取締役副社長
（紹介者：中沖　雄氏）

1．昨年末に当社へ加わり、20～80代までのスタッフ約1,900名に無限大の可能性を感じます。「働きがい＋健康＝ＩＫＩＧＡＩ」をテーマに業界や地域に貢献したいです。
2．雨でも雪でも二日酔いでも365日欠かさずランニング
3．映画鑑賞・スポーツ観戦・スノーボードなど

交　代

太田　俊也（おおた　としや）
三井物産㈱
北陸支社長
（前：神崎直志氏）

1．社会や経済を取り巻く環境が激変する中、富山そして北陸の発展に貢献できるよう、感謝の気持ちと謙虚さを忘れずに、新たな取組みに精一杯挑戦してまいります。
2．本質を見極め、本音で語り、本気でやり切る、やり遂げる
3．音楽鑑賞、カラオケ、ゴルフ

織田　浩之（おだ　ひろゆき）
㈱北日本新聞社
取締役経営企画局長
（前：蒲地　誠氏）

1．創刊140周年を迎え、より一層、県民の皆さんに寄り添う姿勢を大切にしたい。報道、事業、イベントなど通じて富山県の発展と元気づくりに貢献していきます。
2．実るほど頭を垂れる稲穂かな
3．ドラマ鑑賞、飼い犬２匹との戯れ

後藤　敏行（ごとう　としゆき）
㈱西松ホテルマネジメント
代表取締役
（前：加藤　豊氏）

1．社会経済活動が本格化した中で、ホテル経営を通じて労働問題等の社会問題を解決すべく、地域に寄り添い、貢献できるようなホテル経営を目指していきたいと思っています。
2．一期一会
3．ゴルフ・スポーツ鑑賞・ウォーキング

小林　聖子（こばやし　きよこ）
ＹＫＫ㈱
副社長　黒部事業所長
（前：浅野慎一氏）

1．技術畑とは無縁の私がYKKの『技術の総本山』である黒部事業所の長に就任したことの意味を理解して従業員が働くことを楽しめる事業所運営をしていきたいと思います。
2．明るく楽しく元気よく、常に上機嫌でいたいと思っています。
3．短歌、木彫

小山　輝行（こやま　てるゆき）
㈱みずほ銀行
富山支店長
（前：尾崎浩二氏）

1．自身の地元（長野県）の荒廃や過疎化にいつも心を痛めています。富山における地域活性化に微力ながら貢献したいと考えています
2．吾唯足知・初心不可忘
3．スポーツ観戦・映画鑑賞・旅行

下村　貴之（しもむら　たかゆき）
東京海上日動火災保険㈱
富山支店長
（前：小林直行氏）

1．富山の皆様や社会のいつもを支え、いざをお守りする存在として、富山に貢献します。また、立山大使として富山の魅力をアピールしていきたいと思います。
2．人間万事、塞翁が馬
3．旅行、スポーツ観戦、カクテル作り

須田直樹（すだなおき）
全日本空輸㈱
富山支店長
（前：宮本一成氏）

1．航空業界もデジタル化が進み、人が介在する事も少なくなりましたが、それでも人と人の繋がりで仕事は成り立っていくと思うので、どんどん外に出て人に会おうと思います
2．「自分で良いと思うことはやる」です
3．スポーツ（ゴルフ・テニス）

辻秀樹（つじひでき）
オリックス㈱
富山支店長
（前：髙橋邦明氏）

1．地域経済の維持・発展に微力乍ら貢献したいと考えております。当社の多角的な事業を通じ、経営者の皆さまに伴走し、地域に新たな付加価値を生み出すため邁進して参ります。
2．「この行動は誠実か」を問う
3．司馬遼太郎作品の読書、阪神タイガース応援

寺崎治郎（てらさきじろう）
富山製紙㈱
常務取締役
（前：寺﨑敏治氏）

1．時代の変化に遅れを取らぬよう絶えず勉強する。いい紙づくりで社員、お客様、地域のためになる企業体をつくる。
2．逃げず、臆せず、前向きに。敵は己の中にあり。
3．音楽・映画鑑賞、ウォーキング、除草

中嶋徹（なかしまとおる）
日本生命保険（相）
富山支社長
（前：今井孝之氏）

1．生命保険事業に関して、安全・安心をお届け出来る会社作り。加えて市場振興活動による地域貢献に取り組みたい。
2．すぐやること・忘れないこと・変えないこと
3．①サザンオールスターズ（桑田佳祐）②阪神タイガース③写真

中谷仁（なかやひとし）
（公財）富山県新世紀産業機構
理事長
（前：伍嶋二美男氏）

1．社会・経済の課題に対しては、人口の減少と少子化が進むことを基本に対応すべきだと考えます。
2．失敗は成功の基
3．旅行

福田哲生（ふくだてつお）
㈱日立製作所
北陸支社長
（前：山村隆彦氏）

1．社会問題を解決する企業であります弊社のエリアの統括責任者として北陸エリア、お客様に如何に貢献できるかを日々考えております。
2．質実剛健
3．読書、ゴルフ

山口正之（やまぐち まさゆき）
三井住友信託銀行㈱
富山支店長
（前：髙橋朋浩氏）

1．当社は今年で創業100周年を迎えました。これまでの100年について皆さまに感謝をし、信託の力で次の100年を切り拓いていきたいと考えます。よろしくお願いします。
2．賢者は歴史に学び愚者は経験に学ぶ
3．街歩き

山﨑勝（やまざき まさる）
㈱北國銀行
常務執行役員
富山営業部長
（前：喜多雅之氏）

1．弊社が目指す姿「地域総合会社」へのCXを実現し、地域、社会、企業、ひとの見落された力を発見、組合せることで、新たな価値を創造しクオリティーリージョンへ導くこと
2．上善如水
3．ロードバイク、渓流釣り、読書

山本拓治（やまもと たくじ）
㈱かんぽ生命保険
富山支店長
（前：飯野高騎氏）

1．これまで多くの方々と出会い、自分の知らない世界がたくさんあることを教えられました。自分の無知さを知り、勉強することの大切さを日々感じております。
2．何事も謙虚な姿勢と感謝の心で！
3．天体観測、写真、バイク、中国語など多数

吉澤勉（よしざわ つとむ）
㈱大和富山店
店長
（前：中﨑俊也氏）

1．地域密着を念頭に、お客様に喜んでいただける店造りに邁進する所存です。
2．感謝に明けて奉仕に暮れる
3．ゴルフ

吉澤正樹（よしざわ まさき）
日本カーバイド工業㈱
執行役員
魚津・早月工場長
（前：長谷川幸伸氏）

1．半導体関連の需要回復はいつか、円安はどこまで続くのか、中国の経済成長の今後は、そして米国大統領選挙の行方は？いづれも読みを間違えると事業展開に大きな影響あり。
2．俺がやらねば誰がやる
3．家庭菜園、料理

吉田修一（よしだ しゅういち）
みずほ証券㈱
富山支店長
（前：髙松重信氏）

1．みなさん一人一人が幸せに過ごすことができるよう金融の側面から貢献したいと考えています。
2．無欲は怠惰の基である。
3．サッカー観戦（息子の試合を含む）

吉田（よしだ）　仁（ひとし）
富山新聞社
代表
（前：後藤尚彦氏）

1．ふるさとに愛着と誇りを。私の信条です。富山の良さにますます磨きをかけ、どんどん発信していくお手伝いをしてまいります。
2．理想を持つことは、現実の努力に力を与える。
3．美術館巡り、ゴルフ

退　会

小　柴　順　子　㈱コージン　会長
小　杉　康　夫　若鶴酒造㈱　相談役
澤　田　悦　守　北陸中央食品㈱　代表取締役
高　田　順　一　阪神化成工業㈱　取締役会長
塚　本　太　輔　日電産業㈱　取締役社長
松　島　和　美　㈱ほっとすたっふ　代表取締役

（令和６年４月16日現在　**会員数445名**）

慶事のお知らせ

おめでとうございます

令和６年春の叙勲において、当会会員が晴れの栄誉を受けられました。
心からお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

旭日小綬章

竹内　茂 氏
㈱婦中興業　取締役社長
当会幹事

事務局からのお知らせ

事務局体制に変更がございましたので、担当委員会とあわせてお知らせいたします。

＜富山経済同友会事務局メンバー＞

事務局長	上田 順子（うえだ じゅんこ）		（担当委員会：企画、交流）
事務局次長	若島 啓子（わかしま けいこ）	（北陸電力㈱）	（担当委員会：地域創生、ＥＳＧ経営小）
事務局次長	市井 涼祐（いちい りょうすけ）	（㈱北陸銀行）	（担当委員会：企業経営、人財活躍、アントレプレナーシップ小）
主席経済交流員(新任)	中山 貴和子（なかやま きわこ）	（富山県）	（担当委員会：教育問題、ウェルビーイング小）
主席経済交流員	植野 雅美（うえの まさみ）	（富山市）	（担当委員会：文化スポーツ、アスリート支援小）
事務局員	髙坂 美和子（たかさか みわこ）		

なお、寺西恵理氏（前 主席経済交流員）は富山県商工労働部地域産業振興室へ帰任致しました。
今後ともよろしくお願い申し上げます。

今後の予定

開催日	対　象	行　　事	場　所
6月14日㈮	正副代表幹事 交流委員会委員	第５回全国立山大使の会 （県外在住の当会会員ＯＢ・ＯＧ会）	はま作 （日本橋とやま館）
6月16日㈰	あけぼの会会員	第86回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
6月30日㈰	全会員及び 家族従業員	「同友会の日」 （富山ＧＲＮサンダーバーズ戦）	県営富山野球場
7月10日㈬	幹事以上	７月幹事会	富山電気ビルデイング
7月10日㈬	全会員	７月会員定例会 講師：㈱セコマ代表取締役会長 丸谷 智保 氏 演題：未定	富山電気ビルデイング
8月20日㈫	令和５年10月 以降入会新会員、 正副代表幹事、 常任幹事、 各委員会委員長、 交流委員会委員	新会員歓迎オリエンテーション・懇親会	オークスカナルパーク ホテル富山
9月８日㈰ ～16日（月･祝）	全会員	第42回海外経済視察	ドイツ
9月23日（月･祝）	あけぼの会会員	第87回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
10月１日㈫	幹事以上	10月幹事会	ホテルニューオータニ 高岡
10月１日㈫	全会員	10月会員定例会 講師：元プロラグビー選手　畠山 健介 氏	ホテルニューオータニ 高岡

〔表紙写真〕

第３回人財活躍委員会（県外視察）

４月４日㈭～５日㈮静岡県浜松市へ外国人材活用の先進事例視察を実施。

写真は、ソミックマネジメントホールディングス㈱で意見交換会後に撮影した１枚。浜松経済同友会とも懇親会を通して交流を深めた。

発　行　所
富山経済同友会
富山市牛島新町５番５号　インテックビル４階
電　　話（０７６）４４４―０６６０
Ｆ　Ａ　Ｘ（０７６）４４４―０６６１
e-mail:doyukai@po.hitwave.or.jp
https : //www.doyukai.org/

わが青春の1枚

北ノ俣岳雲海を歩く（2014年11月23日）

中年からの山屋

ＴＳＫ株式会社　代表取締役　　高 木 悦 郎

山屋たちはよく「魂が震える」と言う。この世の最期に迎える走馬灯の中で再び見ることができるように、目の前の情景を深く記憶に刻む。上の写真もその１シーンである。

2007年初夏48歳のとき。親友Ｏ氏にいきなり大辻山沢ルートへと連れて行かれ、沢水と汗でびしょ濡れになりながら登頂。下山後即山用品一式を購入。翌週、雨の中八郎坂から弘法へ引きずり上げられた。するとどうだ、足元より遥かに雲海が広がっているではないか。そのとき、私は山屋になることを決めた。

その後Ｏ氏とは立山山頂からのスキー滑降、後立山連峰キレット群縦走、ジャンダルム岩峰群縦走、別山北面ルートロッククライミングなど「心臓が震える」山行を重ねた。

2010年51歳のとき。更なる高みを求めて富山山想会に入会。そこは強者達が集う山岳会で、沢登り、ロッククライミング、厳冬期テント泊、山スキーロングツアーなど、異次元の「身も心も震える」体験をすることとなる。山岳会は「弁当とリスクは自分持ち」という厳しい世界である。しかし一般社会の常識から離れてそれぞれの価値観を強く持つ山屋たちに囲まれ、素の自分をさらけ出すことが心地よく、私はどっぷり山の世界に浸りこんでいった。

自然は様々なことを私に教えてくれる。森林限界を超えた山の中で、夜中にテントから顔を出し、溢れんばかりの星空を眺めていると、「人も何もかもが宇宙の一部で全部繋がっている。つまらぬ虚栄など捨てて安心して大いなる宇宙の流れに身を委ねればいい」という宇宙の意志が伝わってくるようだった。

2024年65才の今。体力的に50代の頃のようには山に登れなくなったが、森林セラピーガイド資格を取得し、社内研修の一環として「森でリトリート」というプログラムを始めた。自然と一体となって「魂が震える瞬間」を多くの人と共振したい。